

## 日本語イマージョン・プログラム実習

担当教員：大関

受入主体	フェア・ファックス郡教育委員会（アメリカ・ヴァージニア州）
実習場所	フォックスミル小学校（フェア・ファックス郡の公立小学校）
目的	<p>① 日本語*<u>イマージョン・プログラム</u>という先端的・実験的な日本語教授法を体験的に学ぶ。</p> <p>*習得目標言語に浸すことによって、その言語を習得させる方法。小・中学校レベルで行われるイマージョン・プログラムは算数や理科などの教科の授業を習得目標言語で行って、教科の内容とともに目標言語も習得させるというもの。現在アメリカでも数十の小・中学校で日本語イマージョン・プログラムが実施されている。</p> <p>②日本語教師としての資質を養うための経験を蓄積する。</p> <p>③英語力（会話力）の向上をはかる。</p> <p>④小学校での実習やホームステイによって異文化を体験する。</p>
内容	<p>*ワシントン到着後、URTAの海野氏（現地世話担当者）による2日間のオリエンテーションを受ける。</p> <p>①日本語クラスの授業を見学。</p> <p>②日本語クラスの授業の補助活動（机間巡視、授業準備など）。</p> <p>③日本語クラスの諸活動の指導（歌、劇の指導）。</p> <p>④日本語クラスでの日本文化紹介授業の実施。</p> <p>⑤英語クラスでの日本文化紹介授業の実施。</p>
単位認定	<p>海外日本語教育実習 1単位</p> <p>*これは留学による認定科目でなく、麗澤大学の認定科目である。単位は実習の次の学期の認定となる。実習終了後4月に履修登録する。日本語教育実習については実習校の担当教員の評価及び本人提出のレポートにより、麗澤大学の科目担当教員が単位を認定する。</p>
期間	4週間（2月中旬～3月中旬）
宿泊	小学校(イマージョンクラス)児童の家庭にホームステイをする。(原則として2週間×2)
参加人数	最大3～4名（小学校、ホストファミリーの受入数によって決定）
参加資格	<p>① 全専攻（ただし日本語・国際コミュニケーション専攻以外は日本語教員養成課程副コース履修者および日本語教育・国語教育副専攻履修者）</p> <p>② 2年生以上（日本語・国際コミュニケーション専攻以外は3年生以上）*学年に関しては3年生以上の学生がいる場合は優先する</p> <p>③ 原則としてTOEIC450点以上。 （他に優れた点があると専攻によって判断された場合は400点以上。）</p> <p>④ 1月初旬に、<u>結核に感染していない証明書</u>と<u>警察発行の無犯罪証明書</u>を、先方の教育委員会に送付する必要がある。</p>
参加規則	<p>① 海外旅行保険に必ず加入する。 ②ホームステイ・実習期間中車の運転は絶対禁止。</p> <p>③ 「イマージョン・プログラム実習協定書」、「ホームステイ・ガイドライン」をよく理解し、遵守する。</p> <p>④ ホストファミリーの意見に従い、率先して家事を手伝ったり、子供に日本語で接したりして良好な関係を保つ努力をすること。</p> <p>⑤ URTA/海野氏の指示には必ず従うこと。</p>

## 日本語イマージョン・プログラム実習

担当教員： 大関 浩美

2年次または3年次			
4月	(1年次)留学・海外日本語教育実習オリエンテーション (谷川にて)	4月	履修登録
			実習報告会
5月		5月	
		/30	*実習レポート・実習報告書提出〆切
6月		6月	指導教員の評価と実習者のレポートをもとに教員による面接
下	実習説明会(1年次生の参加も可)		<p>* A「日本語イマージョン・プログラム実習報告」個人作成 ①実習校での自分の実習について ②日本語イマージョン・プログラムについて ①と②あわせて6,000字程度 B「実習生活について」個人作成 *ホームステイ、小学校、異文化体験など C「日本語イマージョン・プログラム実習記録」(グループで一部作成) *実習期間の正確な記録(文字数は自由) (出発から解散までの日時、出来事、その説明)</p>
7月	実習申込書	7月	
中	学科に申込書類提出 TOEIC成績証明書 (またはTOEFL英検2級)		
下	学科での参加者選考(実習参加候補決定)		
8月		8月	
9月	各学校へ受入れ人数打診 人数決定後名簿送付  現地より受入れ人数の回答(参加者決定)	9月	単位認定
10月	ホームステイ先の斡旋開始 実習ガイダンス(現地での授業・実習の準備開始)  実習校・ホストファミリーの決定	10月	<p>下記の指導が渡米直前まで継続的におこなわれる。 ・イマージョン教育、教案の書き方などの指導(近藤) ・日本文化紹介の授業の指導(近藤)</p>
11月	書類提出→センターへ「実習願」「誓約書」「パスポートコピー」 幼稚園・小学校における予備実習(公欠) 指導教員へのポートフォリオ・ホストファミリーへの手紙作成・送付 実習ガイダンス	11月	
12月	実習ガイダンス 参加者教授会承認(正式決定) 結核の証明書、無犯罪証明書を作成(1月中送付)	12月	
1月	実習最終ガイダンス・日程計画書*提出 (*成田出国から帰国までのスケジュールと連絡先)	1月	
2月	出国・実習開始(中旬) ワシントン到着後オリエンテーション(2日間)	2月	
3月	実習終了・帰国(中旬)	3月	

## 日本語イマージョン・プログラム実習

実習費用(概算)(2015年度の概算)

\$ 1 = 120

1) 現地での費用・他	ドル	金額	支払い方法
URTA手数料(現地でのケア代)*	\$450	¥54,000	各自が現地で支払う。
オリエンテーション費用(2日間)	\$320	¥38,400	
ゲストハウス宿泊費(2泊食事付)	\$85	¥10,200	
ホームステイ費用(1日 \$20 × 28)	\$560	¥67,200	各自が現地で支払う。
昼食代(1日 \$3.5 × 20)	\$70	¥8,400	
実習謝礼品購入費		¥20,000	日本で各自が手配・購入する。
<b>合計①</b>		¥198,200	
2) 渡航費用・他			
往復航空運賃(概算)		¥120,000	各自で手配する。
成田空港使用料			
海外空港税			
航空保険料・燃油特別付加運賃			
海外旅行保険(月約10,000円)		¥10,000	
<b>合計②</b>		¥130,000	

実習費用概算 合計①+②

¥328,200

\* URTA手数料は現地での生活面でのケア(送り迎え、引き合わせ、現地での相談など)にかかる費用。

ただし特別なサービス(たとえば入院する場合の世話など)は別途有料となり、帰国後支払う。